

ファイヤープログラム

1 意義と役割

真っ暗な闇と炎の対照。炎を囲んでの友との語らい、力いっぱい歌い踊る躍動感、そしてしばし沈黙して自己を振り返る。ファイヤープログラムは、感性豊かな子どもたちの心を開き、共に感動を味わう絶好の活動です。

屋外で大きな火を囲んで、ダイナミックな活動が期待できるキャンプファイヤー、屋内で、静かに心に染み入る幻想的なキャンドルファイヤー。それぞれ一長一短があります。活動の目的や、活動参加者の構成に応じて組み入れてください。

2 プログラムの流れ

本来、定型といわれるものではありませんが、意義をふまえ単なるお祭り騒ぎにならないように以下のような三部構成で行うのが一般的です。

第1部「点火のセレモニー」（厳粛な雰囲気の中で）

第2部「交流のつどい」（歌唱、スタンツ、ダンスなどのレクリエーション）

第3部「消火（分火）のセレモニー」（再び厳粛な雰囲気です）

3 運営のポイント

- ・ 静→動→静という雰囲気のカーブを意識する。
- ・ 日常生活とは異なる雰囲気を醸し出す。
- ・ それぞれの団体の性質を考えて独自のプログラムを考える。
（各団体の団体指導者、活動参加者による企画・運営）

4 事前の準備

- ・ プログラムの検討、役割分担
- ・ シナリオ作成（歌やスタンツの練習、準備）
- ・ 資材の準備（貸出し）、場所の選定
- ・ 安全確保の確認

5 活動終了後の流れ

- ・ 参加者の誘導
- ・ 消火と片付け
- ・ 用具の返却

展開例

展 開	進 行	留 意 点
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・係ミーティング ・準備 ・リハーサル 	
第一部 点火のセレモニー（10～20分）		
参加者入場 開会の言葉 歌唱 火の神入場 火の神の言葉 誓いの言葉 点火 （分火） 歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左（反時計）回りに大きな円となるよう入場 ・ 司会による ・ 「遠き山に日は落ちて」1番歌、2番ハミング ・ 歌に合わせて火の巫女先導で火の神入場 <p>（火の神の言葉の例参照） （誓いの言葉の例参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火の守は片膝をついて、火の神より火をもらう。 ・ 司会の合図で火の守は井桁（メインキャンドル）に点火する。 ・ キャンドルファイヤーでは、ここで分火を行ってもよい。火の守が、グループメンバーに火を渡し、次々に個人キャンドルに分火していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「燃えろよ、燃えろ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私語を慎む。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 輪の中を反時計回りに一周する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプファイヤーでは、井桁の下部に点火する ・ キャンプファイヤーは分火を行わない。 ・ 火を見つめながら歌う。
第二部 交流のつどい（40～60分）		
スタッツ ゲーム ダンスなど	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループのスタッツ（寸劇、歌など） ・ ゲーム ・ フォークダンス 	
第三部 消火のセレモニー（10分）		
歌唱 火の神の言葉 （分火） 詩の朗読 歌唱 火の神退場 閉会の言葉 退場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「一日の終わり」など <ul style="list-style-type: none"> ・ キャンドルファイヤーではここで分火を行ってもよい。 ・ 担当が詩を朗読 <p>「今日の日はさようなら」2番からハミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火の巫女は歌の途中から残り火をトーチに移し、火の神に渡す。 ・ キャンドルファイヤーでは個人キャンドル消火（グループごと順次消す、火の神の退場にあわせて通過したら消していく、誕生月ごとに消す、一斉に消すなど）消火後に火の神退場でもよい。 ・ 火の巫女を先頭に、神、守は円の中を一周して退場 ・ 司会による ・ 全員無言で退場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心を静める。 ・ キャンプファイヤーでは分火は行わない。 ・ 雰囲気合った詩を選んでおく。 ・ キャンプファイヤーでは消火は行わない。

- ・ **展開例は一例です。** 集団の年齢や構成、実態に応じて、様々な方法が考えられます。点火、分火、消火の方法についても、感動的な演出を考え、行ってみてください。
- ・ キャンプファイヤーとキャンドルファイヤーに基本的な流れには差がありませんが、**キャンプファイヤーは消火はできません。** 会の終了時も火はついていると考えてください。

火の神の言葉（例）

私は、この焼津の町の北「高草の山」に住む火の神である。今宵は皆のため、火を授けに降りてきた。

考えてほしい。人々は火を自由に扱えることによって、このように発展をとげてきたのだ。遙か昔、人々が火を手に入れるのにどんなに苦勞をしてきたか考えたことがあるだろうか。火の存在は、決して当たり前のことではないのだ。

私が授けるこの火によって『感謝の心』を思い起こしてほしい。その心が皆の豊かな心を育む。そして、その先にはすばらしい未来が待ち受けているだろう。

今宵が皆と、この地球のすばらしい未来のための第一歩であることを願っている。

※ 火が人間に与えてくれた恩恵を伝える。また、その火を手に入れるために人間のたゆまざる努力と勇気と、多くの人の協力があつたこと、その結果、人間が文明を手に入れたことを伝えたい。キャンプファイヤーでは、大きな火の持つ圧倒的な力、誤った使い方をすれば、脅威となる火の怖さも伝えたい。

誓い（分火）の言葉（例）

火の神「おまえたちに、私から火を分け与える。この火を消すことなく、大切に守り続けてほしい。」

火の神「あなたには『健康の火』を授ける。」

火の守①「私は『健康の火』をいただきました。私たちは体を大切にし、明るく生活することを誓います。」

火の神「あなたには『感謝の火』を授ける。」

火の守②「私は『感謝の火』をいただきました。私たちは常に感謝することを忘れずに生活することを誓います。」

火の神「あなたには『自立の火』を授ける。」

火の守③「私は『自立の火』をいただきました。私たちは自立の心を養い、前向きに努力することを誓います。」

全員で「わたしたちは、いただいた火をいつまでも、心の中に燃やし続けます。」